

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	公益財団法人札幌市芸術文化財団	
施 設 名	札幌コンサートホール Kitara	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	20,026	(千円)
	公 演 事 業	4,797 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,730 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	12,499 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Kitaraのクリスマス～道義のラストクリスマス～	令和5年12月23日 (土)	指揮者／井上 道義 振付・ダンス／森山 開次 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	1,570
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,692
2	Kitaraのニューイヤー	令和6年1月13日 (土)	指揮者／原田 慶太楼 ヴォーカル／シルビア・クラブ 管弦楽／札幌交響楽団	目標値	1,570
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,524

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、ス	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第26回リスト音楽院セミナー	令和6年2月20日(火) オーディション	講師ノガーボル・ファルカシュ(ピアノ)、バラージュ・レーティ、(ピアノ)ミクローシュ・ペレーニ(チェロ)	目標値	受講生30、全期間聴講生7、一日聴講生50、講師特別コンサート385、特別レクチャー80、受講生コンサート100
		令和6年2月21日(水)～25日(日)セミナー			
		令和6年2月26日(月) リスト音楽院 ノン・ディグリー・プログラム入学試験		実績値	受講生37、全期間聴講生12、一日聴講生38、講師特別コンサート(チェロ)367、講師特別コンサート(ピアノ)169、特別レクチャー92、受講生コンサート259
2	〈Kitara&札幌音楽家協議会連携プロジェクト〉札幌の音彩(ねいろ)I～春を上げる北のアーティストたち～	令和6年3月16日(土)	札幌音楽家協議会会員	目標値	340
		札幌コンサートホール小ホール		実績値	347

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和5年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッ	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	Kitara あ・ら・か ると	令和5年5月3日 (水・祝) ～5日(金・祝)	指揮/鈴木 優人、ソプラノ /中江 早希、管弦楽/札幌 交響楽団、市内中学校合唱 部 他	目標値	総入館者数 10,000、きがる 1,320、中学生コーラ ス 750、オルガン 750、3 歳からのコンサート 420×3 公演、 楽器づくりワークショッ プ 400、地下探検隊 40、 子どもスタッフ体験 7
		札幌コンサートホール 大ホール、小ホール		実績値	総入館者数 8,082、きがる 1,491、中学生コーラ ス 789、オルガン 991、3 歳からのコンサート 1,192、 楽器づくりワークショッ プ 761、地下探検隊 54、 子どもスタッフ体験 7、 無料コンサート 415
2	Kitara ファース ト・コンサート	令和5年10月10日 (火)～13日(金)、11 月15日(水) ～17日(金)	指揮/川瀬 賢太郎、マティ アス・パーメルト、管弦楽/ 札幌交響楽団 他	目標値	約 20,000 (教員、関係者 を含む)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	16,536 (教員、関係者を 含む)
3	Kitara アフタヌ ーンコンサートシリ ーズ	令和5年6月10日 (土) 令和5年8月11日 (金・祝) 令和5年9月17日 (日)	ピアノ三重奏団/ハンブル クトリオ、浄瑠璃/竹本 駒 之助(人間国宝)、バリトン /宮本 益光 他	目標値	ハンブルクトリオ 300、 女流義太夫 380、バリト ンリサイタル 350
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	ハンブルクトリオ 239、 女流義太夫 303、バリト ンリサイタル 228

4	Kitara・教文連携プロジェクト 雅 Vol.1 -Miyabi- CLASSIC×NOH -弦楽四重奏と能が織りなす新たな世界-	令和5年11月18日 (土)	弦楽四重奏/ Les pommes <sup>2</sup> 、シテ方/梅若 基徳(観世流シテ方・重要無形文化財総合指定保持者) 他	目標値	400
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	410
5	〈北海道教育大学・札幌大谷大学・Kitara 連携事業〉若い芽の音楽会	令和5年11月11日 (土)	司会/鎌倉 亮太、出演/札幌大谷大学、北海道教育大学岩見沢校から推薦を受けた卒業生、在校生	目標値	320
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	258
6	〈ハンガリーの俊英たちIV〉ジョンボル・ダーニエル・エセニ クラリネットリサイタル	令和6年2月12日 (月・祝)	クラリネット/ジョンボル・ダーニエル・エセニ、ピアノ/横山 瑠佳	目標値	270
		札幌コンサートホール 小ホール		実績値	213
7	学校オルガンアウトリーチ	①令和5年9月1日 (金) ②令和5年9月15日 (金) ③令和5年11月2日 (木)	オルガン・お話・通訳/吉村 怜子、オルガン/ウィリアム・フィールディング	目標値	小学校2校、中学校1校 (児童・生徒の参加数は学校の希望による)
		①札幌市立手稲東小学校 ②札幌市立星友館中学校 ③札幌市立南小学校		実績値	①札幌市立手稲東小学校 115 ②札幌市立星友館中学校 (夜間) 70 ③札幌市立南小学校 94
8	パイプオルガン特別講義&オルガン体験レッスン	令和5年5月18日 (木) 令和5年6月20日 (火)	オルガン・講師/吉村 怜子	目標値	特別講義: 学生 100、一般 60、体験レッスン受講: 10
		札幌コンサートホール 大ホール 大リハーサル室		実績値	特別講義: 学生 133、一般 57、体験レッスン受講: 8
9	0歳からのコンサート	令和5年6月3日 (土)	ピアノ/田村 緑、ヴァイオリン/神谷 未穂、チューバ・絵本朗読/喜名雅、オルガン/吉村 怜子ほか	目標値	1,500 (ひざ上鑑賞あり)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	1,673 (うち未就学児 197名ひざ上鑑賞 401名)

10	障がいのある方を対象とした音楽ワークショップ「子どものための音楽ワークショップ 障がいを越えて楽しむコンサート」	令和5年 9月6日(水) 7日(木)	音楽ワークショップ・アーティスト／おとみつく ※一般非公開で実施	目標値	約15校 (学校の希望による)
		札幌コンサートホール 大ホール		実績値	9月6日(水) 80名(聴覚障がい児)、 9月7日(木) 午前の部 53名(身体障がい児・知的障がい児)、 午後の部 205名(知的障がい児等)

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価						
ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。						
<b>&lt;ミッション（社会的役割等）&gt;</b> <p>札幌コンサートホールでは誰もが多様な実演芸術を楽しむきっかけづくり及び市民の心豊かな生活の実現をミッションに掲げている。ホールを管理運営する札幌市芸術文化財団では、札幌市の文化芸術振興を図り効率的な経営の実現を目指すため、令和5年度から5カ年の中期経営計画を策定した。当該計画に基づき、当ホールでは、以下の6つの管理運営方針を定め、地域のニーズ及びホールが持つ強みを生かした事業を企画し実施した。</p> <table border="1"><tr><td>①質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供（公演1,2）</td></tr><tr><td>②誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールへ（人材養成2、普及啓発1,2,3,6,7,9,10）</td></tr><tr><td>③札幌の音楽文化の未来を見据えた育成、支援（人材養成1,2、普及啓発1,2,5,6,7,8,9,10）</td></tr><tr><td>④他分野との連携を広げ、札幌の音楽文化をあらゆる分野へ（公演1、人材養成1、普及啓発1,2,4,7,10）</td></tr><tr><td>⑤利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供（全共通）</td></tr><tr><td>⑥安心・安全で、持続可能な社会に貢献できる施設運営（全共通）</td></tr></table>	①質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供（公演1,2）	②誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールへ（人材養成2、普及啓発1,2,3,6,7,9,10）	③札幌の音楽文化の未来を見据えた育成、支援（人材養成1,2、普及啓発1,2,5,6,7,8,9,10）	④他分野との連携を広げ、札幌の音楽文化をあらゆる分野へ（公演1、人材養成1、普及啓発1,2,4,7,10）	⑤利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供（全共通）	⑥安心・安全で、持続可能な社会に貢献できる施設運営（全共通）
①質の高い音楽を鑑賞できる機会の提供（公演1,2）						
②誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールへ（人材養成2、普及啓発1,2,3,6,7,9,10）						
③札幌の音楽文化の未来を見据えた育成、支援（人材養成1,2、普及啓発1,2,5,6,7,8,9,10）						
④他分野との連携を広げ、札幌の音楽文化をあらゆる分野へ（公演1、人材養成1、普及啓発1,2,4,7,10）						
⑤利用者の声を反映し、利便性の高いサービスを提供（全共通）						
⑥安心・安全で、持続可能な社会に貢献できる施設運営（全共通）						
<b>&lt;事業計画の組み立て及び事業の実施&gt;</b> <p>世界一流のオーケストラやソリストを招へいた本格的なクラシック公演のほか、0歳から入場可能なコンサート、障がい児向けのワークショップなど、多様な人々が音楽文化に触れる機会を提供した。また、開館から継続しているハンガリーのリスト音楽院との連携セミナー、海外からの専属オルガニスト招聘等、世界に広がるネットワークを活用した事業を通じて、市民に音楽を通じた文化交流の場を提供した。さらに、札幌市の小学6年生全員を地元オーケストラ公演に招待する事業、地元教育機関や財団他施設とのジャンルを超えた連携事業を実施する等、多方面のニーズをとらえたミッションに基づき、地域の文化振興に寄与する事業を実施した。また、ほぼ全事業において当初の予定通り実施することができた。</p>						
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。						
<b>■文化的意義■</b> <p>世界屈指の音響を生かした数々の国内外の一流オーケストラ公演から、誰でも気軽に音楽を楽しめる事業、地域で活躍する若手音楽家の支援事業等を実施し、北海道の中心都市札幌の公共ホールとして地域の音楽文化を牽引する事業を実施できた。財団他施設との連携事業「CLASSIC×NOH」（普及啓発4）はクラシックと古典芸能を融合させ、双方のファンに新たな文化芸術の紹介を図る等、市民の文化芸術水準の向上に寄与することができた。</p>						
<b>■社会的意義■</b> <p>世代や障がい、国籍等を越え、あらゆる市民へ魅力的な芸術文化に触れる機会と新たな感動との出会いを提供できた。特に「障がいのある方を対象とした音楽ワークショップ」（普及10）では、参加者の感性を育むとともに、出演者やスタッフ、児童同士の交流が障がいを越えた相互の理解に繋がり、当ホールも改めて合理的配慮の重要性を認識し事業実施に努めることに繋がった。</p>						
<b>■経済的意義■</b> <p>地元テレビ局やラジオ番組での広報によりクラシック音楽の魅力発信を行ったほか、地元菓子メーカー等とも連携を図り地域経済への普及効果に努めた。また、「Kitaraあらかると」（普及1）では地域飲食店の出店、「Kitaraアフタヌーンコンサート」（普及3）では、チケット半券提示で割引適用、友の会会員証提示による近隣ホテル等の優待など、飲食業や観光業などの地元企業との連携を図り、経済的効果の波及に努めた。さらに、地元アーティスト（伴奏、譜めくり等含）を積極的に起用し、音楽技術向上及び活動の場の提供を行った。</p>						

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### (1) 公演事業 ※2 事業

目標：「音楽専用ホール」としての音響とホール独自のネットワークを生かし、世界的に評価の高い音楽家の招へいと民間事業者による公演とのバランスを考慮した、高い芸術性と独自性のある企画を実施し、往年のKitaraファンから若者まで幅広い市民が感動体験できる一期一会の機会を創出する。

	指標	目標 (事業平均)	実績 (事業平均)
①	入場者数/入場率	3,140/80%	3,216/82%
②	市民への質の高い芸術鑑賞機会の提供 (顧客満足度/とてもよかった・よかったの回答率)	93%	96%
③	ホール独自の企画の実施	—	—
④	新たな聴衆の開拓 (初来場者/市外からの入場者)	8%/21%	6%/13%
⑤	若年層へのアプローチ (「U25」シート購入率)	22%	11%
⑥	効率的な事業運営・経費の執行 (事業費支出に対する入場料収入の割合)	58%	69%
⑦	友の会組織の活用 (KitaraClub会員/アプリ会員のチケット購入枚数)	500/135	498/429

指標①・②・⑥は達成、⑦についても概ね達成することができた。④については、近隣ホテルへのPRを積極的に実施した結果、散歩中に訪問等の旅行者もいたが、個人単位での伸びに留まった。現在、航空会社と情報交換に努めており、来年度はツアー客の取り込みを模索していきたい。⑤については、SNS 広告の投稿、地下鉄車内への広告掲出、市内小中学校へのチラシの配布等を行い若年層へのPR強化を図ったが目標には到達しなかった。引き続き、若年層が目にする機会の多い広報スポットに効果的なPRを行い、チケット購買へと結び付けていきたい。

#### (2) 人材養成事業 ※2 事業

目標：札幌コンサートホールの設備、特徴、独自のネットワークを最大限に活用し、世界的音楽家によるハイレベルな指導や地元演奏団体による室内オーケストラと合唱公演実施の機会を創出し、地元を中心とした演奏家・音楽家が互いに交流し切磋琢磨することで、自らの音楽の研鑽や理解を深めようとする自発性・自主性を促すよう工夫する。

	指標	目標 (事業平均)	実績 (事業平均)
①	入場者数/入場率	496/60%	661/65%
②	参加者・観客満足度 (顧客満足度/とてもよかった・よかった また参加したいの回答率)	91%	87%
③	地域の音楽文化への貢献/市民への発表の場の提供と音楽の普及/音楽で人を育てる人材の養成	—	—
④	道内出身・在住者のセミナー応募率/受講生率/受講生コンサート出演率	45%/45%/30%	39%/36%/56%

指標①は達成、②についても概ね達成することができた。④については、国内的にチェロのセミナー開催が少ないため全国から応募があり道外勢が多くなったが、ピアノコースは約半数が道内出身・在住者だった。一方、担当講師の推薦により選ばれた受講生が出演するコンサートでは、出演者のうち半数が道内であったことから、地元の若手演奏家のレベル向上、育成に寄与できた。

#### (3) 普及啓発事業 ※10 事業

目標：独自に広がるネットワークとホールの特色を活用し、公演内容やチケット料金を工夫することで、年齢や障がい、さまざまな社会的状況に依らず、誰もが札幌コンサートホールに身近に触れ、多様な音楽芸術を楽しむことができるきっかけを創出する。

	指標	目標 (事業平均)	実績 (事業平均)
①	入場者数/入場率	3,824/76%	3,331/69%
②	顧客満足度 (とてもよかった・よかったの回答率)	91%	93%
③	企画の効果	—	—
④	新たな聴衆の開拓 (初来場者/市外からの入場者)	37%/13%	27%/11%
⑤	子ども・若年層へのアプローチ (「U25・子ども料金」購入率/アンケートでまた来たいの回答率)	26%	30%
⑥	効率的な事業運営・経費の執行 (事業費支出に対する入場料収入の割合)	34%	39%
⑦	友の会組織の活用 (アプリ会員のチケット購入枚数)	236	546

指標②、⑤～⑦は達成。①については、事業3の入場率が低かったことが原因である。週末の日中に設定したが、行楽シーズン中の公演では屋外イベント等に出かける人が多く集客に苦慮したことから、来年度は日程の検討を進めたい。一方で、U25 料金購入率目標3%のところ8.8%を占めるなど、若年層の来場が目立つ結果となった。④については、事業1の家族で楽しめるイベント、事業2の小学6年生招待コンサートにおける初来場者率が高いことから、⑤の目標達成に貢献したものと考える。

#### <総評>

いずれの事業も概ね目標値を達成できたが、一部未達成の目標については今年度の反省を生かし、来年度の事業構築に結び付けるとともに、広報展開も積極的に行い、事業の充実及び新たな聴衆の開拓につなげていきたい。



### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### (1) 公演事業 ※2 事業

いずれの事業においても当初の予定通りに実施した。

##### (2) 人材養成事業 ※2 事業

事業1については、出演者との調整により当初予定していなかった1公演を追加したが、公演告知も適切な時期に行うことができ、運営に支障をきたすことなく事業内容を充実させることができた。事業2は当初の予定通りに実施した。

##### (3) 普及啓発事業 ※10 事業

事業1～5、9、10は、当初の予定通りに実施した。

事業6については、アーティストとの連絡に時間を要したが、余裕を持ったスケジュールで調整を開始したことから、当初計画していた通りの時期にチラシ制作やチケット発売を行い、事業を実施することができた。

事業7については、学校側が新年度に入ってから日程を調整する必要があるが、当初予定していた時期で実施することができた。事業8については、地元音楽大学との連携事業であり、連携先である札幌大谷大学の授業の一環として機能させることから、大学の次年度スケジュールが決定する秋～冬頃に日程調整を行ったが、当初の計画通りチラシ制作やチケット発売を適切な時期に行うことができた。

#### <総評>

いずれの事業においても当初の計画から大幅な変更はなく、予定通りに進めることができた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

単位：千円	要望書予算（収入   支出）		決算（収入   支出）	
(1) 公演事業	11,945千円	20,027千円	12,329千円	17,748千円
(2) 人材養成事業	4,140千円	7,907千円	4,309千円	7,960千円
(3) 普及啓発事業	39,857千円	61,106千円	42,770千円	54,180千円

(1) 収入面においては、指揮者の井上道義氏が引退前最後の出演となることや、ダンスとのコラボレーション企画を前面に打ち出した広報を実施し申請時の収入を上回るチケット収入を得ることができた。一方、支出面では、いずれの事業においても印刷物等の徹底した費用の節約に努め、要望額の範囲内での予算執行をすることができた。

(2) 収入面においては、いずれの事業においても当初の予算通り執行することができた。一方、支出面においては、事業1にて海外渡航費・宿泊費・食糧費等の物価高騰や、出演者との調整により当初予定にないコンサートを1公演追加した結果支出増となったものの、一流音楽家による演奏は参加者から多くの称賛を得た。

(3) 収入面においては、事業3、事業6の集客数が目標の63%程度となったが、その他の事業が好調で目標を上回る収入を確保することができた。一方で、支出面においては、事業1にてバス借り上げ費の高騰などが影響したものの、テレビCM及び雑誌広告等の大型広告以外の安価なSNS広告を活用し、より社会状況に適合する効果的なPRを実施することができた。

#### <総評>

いずれの事業においても収支全体を見ると大幅な変更はなく、ほぼ予定通り進めることができたといえる。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

財団の中期経営計画における重点取組項目を踏まえて、令和5年度は地域の文化拠点機能を最大限に発揮するために、下記の5項目に基づく事業を展開した。また、事業実施にあたり、当ホールの強み・資源でもある世界最高峰の音響を生かし、専属オルガニスト制度を活用することで事業の充実を図った。

#### 項目① 地域の子どもたちへの鑑賞機会の提供

- ・普及啓発事業2では、札幌市、教育委員会及び札幌交響楽団と連携した音楽教育プログラムとして、札幌市以外の近隣市町村まで段階的に範囲を拡大し実施。優れた音響を持つホールでのオーケストラ及び専属オルガニストによる音楽体験の提供は、北海道の文化拠点ホールとしての役割を担い、広く音楽文化の振興に寄与している。
- ・普及啓発事業7では、専属オルガニストが移動可能なポジティブオルガンを小学校、夜間中学校に出向き演奏した。また、オルガニストの母国語による挨拶及び音色での表現クイズ等を行い、子どもたちにオルガン音楽の楽しさ、生の音楽の素晴らしさを提供したほか、国際交流の機会も創出した。
- ・普及啓発事業10では、札幌市及び教育委員会と連携し、専門家の意見を踏まえたプログラムを作成し、養護学校・特別支援学校の児童に加え、今年は聴覚障がいを持つ児童に向けたコンサートを開催した。障がいの有無に関わらず、誰もが音楽を楽しめる環境を最高の音響設備を持つホールで提供することで、音楽をより身近に感じてもらう体験の創出となり、学校からはプログラム参加後における児童の行動に変化が現れた等の意見もあり、当プログラムの効果を実感した。

#### 項目② 地元音楽家の育成

- ・人材育成事業1では、ハンガリーのリスト音楽院との協定によるセミナーを開催し、全国から集った受講生及び地元音楽家に世界水準の指導を受ける機会を提供し、地元音楽家の育成に寄与した。また、地元音楽大学との連携により、授業の一環として大学から推薦された学生が出演する公開レッスンを実施し、世界有数の音響環境のもと、世界で活躍している一流講師によるレッスンを多くの学生と市民に鑑賞いただき、世界レベルの音楽に触れる機会となった。
- ・普及啓発事業6では、リスト音楽院から推薦されたハンガリーの若手演奏家による演奏会を開催し、ハンガリーの作曲家・バルトークの作品を取り入れ、ハンガリーの文化とともにこれから世界へ羽ばたく海外の若手演奏家をいち早く札幌市民に紹介し、地元若手音楽家の演奏技術及び音楽家としての意識向上を図った。また、地元若手音楽家を育成する団体等と連携し、地元音楽家との共演によるコンサートを開催し、国境を越えた音楽交流の場を提供することができた。
- ・人材育成事業2では、札幌を活動の拠点とする音楽団体「札幌音楽家協議会」と連携し、活動の場が少ない音楽家に対し演奏の場を提供することができた。また、地元音楽家相互の交流機会の創出は各人のレベル向上にも繋がり、北海道の音楽文化の発展に寄与することができた。
- ・普及啓発事業5では、地元音楽大学2校と連携し、両校から推薦を受けた在校生・卒業生による演奏会を開催した。今後の活躍が期待される若手演奏家が羽ばたくための第一歩となり、若手音楽家を応援する地元ファンの拡大に繋げることができた。
- ・普及啓発事業8では、地元音楽大学と連携し、授業の一環として大学生約130人を招きパイプオルガンの特別講義を実施した。専属オルガニストによる世界トップレベルの演奏を交えた講義は、音楽家を志す学生の刺激となり、通常の授業では得られない貴重なものとなったほか、オルガン音楽の魅力を普及する好機となった。

### 項目③ 地域の文化施設との連携

・普及啓発事業4では、主に伝統芸能や演劇公演を扱う当財団の施設である札幌市教育文化会館と連携し、クラシックと能を融合させた革新的な公演を開催した。各館の特性を生かした事業は異なったジャンルのファンを取り込む契機となり、市民が新たな文化芸術に足を踏み入れる一助となった。

### 項目④ 地元オーケストラの起用

・公演事業1及び2では、北海道唯一のプロ・オーケストラである札幌交響楽団を起用し、優れた音響環境のもとで、国内トップレベルの上質なオーケストラサウンドを市民に提供することができ、札幌のクラシック音楽振興に寄与している。

### 項目⑤ 音楽鑑賞への導入プログラムの実施

・普及啓発事業1では、未就学児でも入場可能なコンサートの鑑賞だけではなく、楽器作り体験、施設見学、子どもレセプション体験など各種イベントを開催し、音楽を媒介として子どもへの文化芸術振興を図った。

・普及啓発事業3では、家族連れやご年配の方でも来場しやすい土日祝日の午後に設定し、プログラムに出演者によるお話を取り入れ、初心者でも分かりやすく親しみを感じられる公演内容とした。また、館内レストランと連携し公演チケット提示で飲食が割引となるサービスを提供し、気軽にコンサートに行く契機となる環境を創出した。

・普及啓発事業9では、0歳から入場可能なコンサートを開催し、演奏に合わせてカラフルな折り紙を振る、体操を行うなどの参加型プログラムに加え、絵本の読み聞かせと演奏を融合した曲を取り入れるなど、子どもたちが飽きずに最後まで鑑賞出来るよう工夫を凝らした。初めてのクラシック鑑賞を幼少期から経験できる場の設定は、未来の音楽家やクラシックファンの育成へと繋げることができた。

### 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

#### 【対象事業の入場者及び参加者を対象としたアンケート】

・事業内容への満足度について、5段階評価の内、上位2つの「とても良かった」「良かった」と回答した割合は、**公演事業 96%、人材育成事業 87%、普及啓発事業 93%**となった。

・普及啓発事業において、初来場者の割合は27%となった。

#### 【専門誌・新聞での批評】

・北海道新聞 2024. 3. 28 朝刊「ミクローシュ・ペレーニ チェロリサイタル」掲載（**人材育成事業1**）  
指揮者 中村隆夫氏により「最近の演奏会の中でもとりわけ心に響くものだった」との批評を受ける。

・音楽の友 2023. 7 月号「リスト音楽院セミナー」掲載（**人材育成事業1**）

ピアニスト・音楽評論家 新野見卓也氏により「現在までに全国からのべ900名ほどが受講した本講座は、札幌のみならず日本の音楽文化に大きく寄与している」、「受講生代表の「ブタペスト・スプリング・フェスティバル」への派遣などは、単に一方的ではない国際文化交流事業として意義深い」との批評を受ける。

<総評>重点項目事業等の参加者による評価、入場者満足度「(とても)良かった」が9割に上っていること、普及啓発事業の来館者約3割が初来場者で未来のクラシックファンの育成にも繋がっていること等から、地域の文化拠点として、市民への文化芸術発信機能、文化芸術に対する意識の醸成、将来にわたる地域文化芸術活動の発展に大きく寄与した。また、専門誌等での批評では、世界水準の音楽を札幌で気軽に享受できる環境への優位性が評価される等、当ホールが札幌・北海道という地域に根ざし、市民と共に歩んできたホールとして不可欠な存在として位置づけられ、地域の文化芸術の発展に大きく貢献してきたと認められる。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### 【事業運営】

・当ホールは、音楽分野における文化振興をけん引する地域の中核施設であることを意識し、当財団の中期経営計画の運営方針に沿って、指定管理計画書に基づいた事業を組み立てている。事業企画はホールの役割やビジョンに沿ったものであるかを外部有識者で組織する「企画専門委員会」、「リスト音楽院セミナー実行委員会」に諮り決定している。事業実施後はアンケート結果について、次年度の計画策定の際に委員会等にフィードバックし、より充実した事業の実施を図っており、引き続き、多彩な事業を実施し、誰もが気軽に音楽を楽しめる、愛されるホールを目指して魅力ある事業を展開していきたい。

#### 【経営戦略】

・当財団の経営基盤安定化に向けた取組①自己財源の安定的な確保、②収入と支出のバランスがとれた経営、を念頭に施設の運営、事業の実施を図る。

・ホール稼働率も平常年に戻りつつあるが、指定管理費の減少、物価上昇及び燃料費の高騰等により収支的には厳しい状況が続いている。収支バランスの改善に向け、事業における適正な料金の検討と幅広い事業展開による収入の確保を目指し、収入増加を図るとともに支出の削減にも取り組む。チケット販売の強化では、無料アプリ会員をチケット購入率が高い有料会員組織「Kitara Club」会員への移行促進、スポンサー制度の見直しによる企業協賛金の獲得等を図り、安定的な財源の確保に努めていく。

#### 【人事戦略】

・当ホールでは財団における人材の基本的な考え方に則り、職員の採用、育成を実施している。高度な専門性及び企画力を持つ人材育成にあたり、各種専門的な研修の受講、研鑽機会の充実、面談を通じての管理職による定期的なフィードバック等、職員一人一人の能力や意識、意欲の向上を図り、人事異動にも活用することで、組織の持続的な発展を図っている。また、当財団の運営する他文化施設との人事異動により、他施設での経験を活かした創造的な事業の創出にもつながり、多彩なプログラムの構築にも寄与している。

#### 【ネットワークの構築】

・当ホールでは、開館以来、国内外の音楽、教育関係施設や団体、地域団体等との連携を実践しており、多様なネットワークを構築し各種事業の共同実施等を行い、様々な手法で文化芸術の振興を図ってきた。引き続き、関係機関とのネットワーク強化に努めるとともに、当財団の重点取組項目でもある①財団他施設との連携強化、②まちづくり、観光等と他分野との連携を推進し、事業の充実を図っていききたい。

※当ホールネットワーク例：リスト音楽院及びブダペストスプリングフェスティバルとの連携事業/全国類似ホール6館（すみだトリフォニーホール、京都コンサートホール、アクロス福岡、所沢ミューズ、新潟市民芸術文化会館）との連携事業/地元音楽団体との連携事業/地元音楽大学等との連携協定締結による事業/札幌市、札幌市教育委員会との連携事業/当財団他事業部との連携事業/地元学生インターンシップ受け入れ等